

日本災害看護学会先遣隊 令和6年能登半島地震活動報告

2024年1月9日(火)

活動隊員：藤田さやか、矢野貴恵、佐藤大介

1. 活動日時

2024年1月9日(火) 7:30~18:00

2. 活動場所

珠洲市健康増進センター(珠洲市保健医療福祉調整本部)

蛸島小学校、旧蛸島保育所、上戸小学校、上戸保育所、飯田小学校

3. 被害状況

人的被害：石川県死者202名、倒壊による生き埋めなど安否確認中(9日15時現在)

住家被害：建物全壊293棟(うち石川県277棟)、半壊60棟(うち石川県34棟)、床上浸水7棟(うち石川県6棟)、床下浸水5棟(うち石川県5棟)、火災発生状況16件(うち石川県10件)(9日15時現在)

道路被害：穴水町、能登町、輪島市、珠洲市における国道・県道の多数にひび割れ、地割れ、隆起があり片側交互通行となっている。能登～珠洲間の道路で数カ所舗装されている。

4. 天候

曇り・雨 最高気温7℃ 最低気温2℃

5. 活動の実際

7:30 【珠洲市健康増進センター集合】

環境整備

担当の2階食事場所、廊下、階段の清掃を行う。センター内で出たゴミをまとめ、集積場所に持っていく。

8:00 【保健医療福祉調整本部ミーティング】

情報共有事項

福祉避難所の開設準備中である。珠洲市大谷地区の孤立地域に派遣されている珠洲市看護師が疲弊している。すぐに別部隊の派遣を要する。なお移動に関しては自衛隊車両、ヘリでの搬入を検討中である。

J-SPEED、D24Hがタイムリーに入力・更新されていない。紙ベースでの提出も継続する。

定期内服薬が倒壊した自宅にあり持参できなかった避難者の内服薬について問題となっている。「薬剤名が不明」「クリニックが閉院している」「珠洲市総合病院の受診歴がない」場合は、医療部隊であれば診察後、その場で処方する。避難所には定期薬が必要で上記の条件に該当する避難者が多数存在する可能性がある。今後どのように対応していくかは本部で対策を検討する為、該当する避難者の情報を本部に報告すること。珠洲市総合病院・小西(医師会長)クリニックがかかりつけの場合は、氏名・年齢・生年月日・避難している場所の情報があれば処方可能とのこと。運搬方法は検討中(巡回時に持参か自衛隊依頼)。

避難所において、呼吸器系の感染症、急性胃腸炎関連の疾患に注意喚起を要する。看護師の資格を持つ避難者が、プライベートでも被災者に頼られ、看護師当人も使命感

から避難者対応を継続している。そのため、休まる暇が無く疲弊している。支援者支援が課題であり、避難所巡回時の状況を本部に報告すること。

10:00 【避難所支援】

~16:00 蛸島小学校

前日までのニーズ調査に基づいた物資と、処方された内服薬の輸送を行う。内服薬においては「お薬手帳等が無い」「自分で病院まで行けない」「家族や友人がいない」「モバイル・ファーマシーに在庫薬剤が無い」「緊急性がない」等の理由で定期薬が無くなって処方できない避難者もあり、慢性期の疾患に迅速かつ長期的視点で介入する方法の検討が必要である。

エアマット（高さ 20 cm程度）50 個の搬入に伴い、分配にマンパワーを要していた。また、体育館のレイアウト再編も検討されており、避難所の環境整備をしていくフェーズにあるため、土足継続が解除できるように、スリッパなどの物資を早期に導入していく。要介護の避難者もあり、家族の介護負担が続いているため、福祉避難所の開設と入所調整が今後の課題である。

旧蛸島保育所

避難者の多くは内服薬を長期間分確保しており、10 日程度の残薬がある方が多かった。家族単位で避難している方が多く、お互いに健康管理のために声をかけ合う様子がみられた。体調不良者はいなかった。食事やトイレは充足しているが、清掃用具がないため掃除ができていない。土足継続については、蛸島小学校同様に物資（スリッパなど）供給ニーズがあり解消に至っていない。

飯田小学校

浜松保健師チーム同行にて訪問し、避難所責任者と情報共有。本部で収集していた情報以外に数名の健康課題のある避難者の情報を収集する。看護師が来ていることを全館放送され、全室に看護師 2 名で巡回した（1 階 4 室 37 名、2 階 7 室 113 名、3 階 6 室 81 名）。健康チェック 18 名（事前情報の要観察者 7 名含む）。4 人で避難していた家族のうち有熱者 2 名あり。90 歳代の父と 60 歳代の長女は、前日 1/8 に医療班で診療済み。本日より母親（90 歳代）と次女（60 歳代）が体調不良、咳（+）。VS 測定により母親 37.5℃、BP190/88mmHg、次女 38.4℃のため、日赤医療班に診療依頼。同時に避難所責任者に隔離室の準備を助言した。隔離室の収容人数が 2 名とのことで、一旦待機としたが、日赤医療班の診療にて娘 2 人がコロナ陽性となり、家族 4 人で隔離室対応となった。

要観察者のうち 40 歳代女性（双極性障害で、金沢市内のメンタルクリニックに通院中）は、ぎっくり腰のため避難所内をゆっくり移動できる程度で、病院やクリニックに出向くことが難しい状況。向精神薬 2 種類の内服薬が切れるため薬が欲しいとのこと。抗不安薬と睡眠剤がモバイル・ファーマシーで処方できないものであったため、DPAT 医師に相談したところ、DPAT 隊で両方を処方してくださった。モバイル・ファーマシーも、2 種類の向精神薬を追加で納品依頼され、避難所内にいる間は内服継続可能となった。本人に処

方薬を渡す際に、内服方法を紙に書いて説明した。右足外踝に蜂窩織炎あり、デブリードマン後、自己にて洗浄・消毒されている。避難所の部屋で交換している様子で、避難所責任者に保健室の使用許可を得て、本日は洗浄・消毒を実施。明日から、自己で保健室にて交換するとのこと。

飯田小学校の避難所は、名簿等も作成されており、人数把握や物品の搬入把握はされている。1日数回、全館放送でラジオ体操の音楽を流し、避難者は部屋で可能な範囲でラジオ体操もしている。1階食堂以外は、全室土足厳禁となっており、3階の1室にペット同伴の家族の部屋が確保されていた。避難所への物資や炊き出しなどの支援もあり、ごみ管理もされていた。避難者の中には多様な健康課題（身体・精神）を抱えた人が複数いるが、避難所に常駐の看護職がいない。今回、新型コロナウイルス感染者が4名でたこともあり、避難所責任者は医療につながりにくいことに大きな不安を抱えているため、継続的な巡回支援は必要と考える。

上戸小学校

250人程の避難者が生活している。避難所運営組織はできており、現役を引退した看護師1名が健康面の支援を担っている。介護度の高い避難者もいるが2部屋に集約されており、家族や近所の方でなんとかサポートはできている状況。発熱者も出ており、家族単位で隔離部屋にしている。1組は解熱しているが、避難所でのルールを守ることができず、周囲との軋轢が生じているため、このまま個室で対応する予定とのこと。もう1組は、幼児2名と祖父母が発熱し、うち幼児1名がインフルエンザの診断を受けたため、保健室で隔離対応となっている（父は発熱がないためペットと共に車中泊をしている）。巡回時、幼児2名は高熱が持続していたが、意識状態は問題なく、食事も取れている。母親が医師免許をもち、自分で家族のケアを行っていたため、外部支援が必要な際に相談するように助言した。子どもの下着・靴下、栄養価の高い食事のニーズがあり、物品依頼をした。

避難者の中で子どもがいる家族が1部屋に集合していたため巡回した。1歳から9歳までの子どもが8人おり、サイズの合うオムツ・衣類・下着・タオル・離乳食・お菓子ではない間食用の食べ物の希望があり、支援物資で持参していたものを提供し、衣類・下着・離乳食については本部に物品依頼をした。提供した物資の中には、塗り絵や文房具などもあり、遊びに飽きていた子どもたちが歓喜する様子もあった。子どもの1人に感冒症状があり、内服治療中であるが、同室の大人に咳・咽頭痛の症状がある。1名は妊娠6ヶ月の妊婦であり、医療チームもしくは保健師の巡回の必要性について報告した。

避難所責任者から、健康管理・感染管理について相談を受けた。現状で、外部支援者の常駐は難しいため、夜間に熱発者が発生した場合には部屋ごと隔離とし、翌朝に対応について本部に連絡を取ることとした。本部では保健師チームが日中のみホットコール対応をすることが決定している。昼夜問わず、さまざまな相談が来るため、看護師が疲弊状態であるため、継続した支援が必要である。

上戸保育所

本部より依頼があり巡回した。避難所責任者から、図面などをもとに、発熱者の発生について説明を受けた。35人程度の避難所であるが、9割以上が高齢者である。HOT療法をしている避難者もあり、医療・介護ニーズは高い。1/5を初発として、本日まで9名が熱発し、うち1名がコロナ陽性となった。家族2名とともに避難しており、その家族も発熱があったため、病院受診後に自宅帰宅の対応をしている。同室の避難者1名が呼吸器疾患を持っており、別の日に呼吸器症状で救急受診歴もあるため、発熱があった場合にはすぐに受診するよう伝えた。4つの部屋のうち、1つの部屋のみ発熱者が出ていない（日中不在のため）。当面、トイレの使用場所を分けること、発熱者がいない部屋の避難者を逆隔離対応にすること検討した。医療ニーズが残存するため、医療班の巡回診療につなげた。責任者には、上戸小学校同様に、ホットコールについて説明し、本部で保健師チームとも情報共有した。明日以降は保健師チームの巡回避難所のリストに入れることとなった。

16:00 【保健医療福祉調整本部ミーティング】

珠洲市総合病院への救急搬送が増えている。病院の受け入れに大きな負担がかかっていることが報告された。珠洲市総合病院の看護職が避難先で頼られているため、昼は病院勤務、夜は避難所でのボランティアで疲弊している。医療職のみの避難先を確保するなど負担軽減の対応策を検討される。

1.5次避難所について、候補者を市の方でリストアップされたため、避難所巡回時に移送する方向で説得をすることとなる。それ以外に必要性のある避難者については、情報を本部に報告すること。

本部のある健康増進センターに自走式水洗トイレカーが設置された。支援者も使用可。

17:00 【避難所支援班ミーティング】

医療チーム・保健師チーム・災害看護学会・災害支援ナースでそれぞれ担当している避難所の情報を共有。すでに閉鎖や、閉鎖可の避難所も出てきている一方で、医療ニーズと公衆衛生上のニーズの高い避難所と優先的に支援者支援の介入が必要な避難所をピックアップ。

18:00 【保健医療福祉調整本部と大谷地区での活動調整】

現在、孤立している大谷地区では総合病院の看護師が支援を行っているが、疲弊状態のため、交代のため学会から看護職を派遣するという情報があった。自衛隊車に同乗して地区内に入るため、複数日の滞在が必要である。学会側の本部調整担当の酒井先生と本部スタッフと共に、日程・人員・活動内容に関する情報共有を行い、避難所班に報告した。

6. 考察

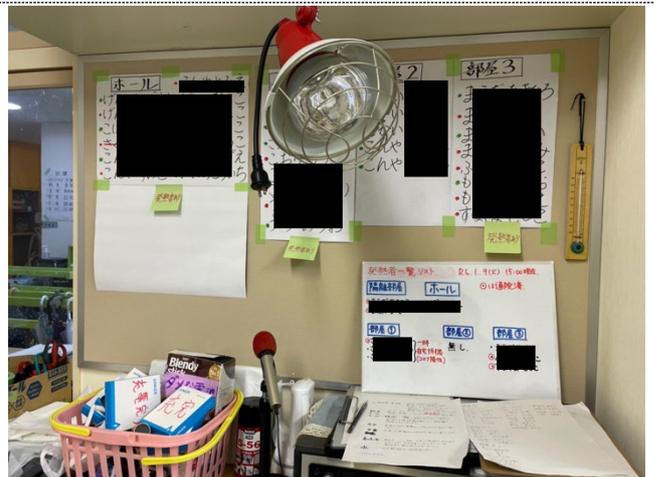
コロナウイルス・インフルエンザウイルス感染者が続出している。別の避難所では胃腸感染様症状を認めるという情報もあり、公衆衛生上の課題に対する支援が必要である。依然、避難所環境は電気・水道も非常に頼っている状況で、清潔環境を保持するにはインフラが十分ではない。それに加えて、気温の低下、降雨・降雪による靴や床の汚染など、避難者の免疫力の低下と細菌・ウイルスの侵入が容易に想定される状況である。土足が継続している避難所は優先的に段ボールベッドの導入・土足解除を行う必要がある。

るが、段ボールベッドは段階的に搬入されており、掃除用品・スリッパ・衛生用品などの物資不足は継続している。一方、子どもの年齢・性別に応じた衣類や食事は巡回により詳細なニーズが抽出できた。物資の適切な配分が課題となる。内服薬処方について、珠洲市総合病院と小西クリニック以外のかかりつけで薬に関する情報がない場合、医師不在のチームは処方依頼できないため、医療チームとの連携が必要である。

7. 参考写真



蜂窩織炎の処置



発熱者の情報



個別ニーズに即した物資提供



自走式水洗トイレカー

災害時の劣悪なトイレ環境は災害関連死の原因にもなり、衛生的で安全なトイレ環境の確保は、被災者の健康維持を図る上で非常に重要な課題です。
南あわじ市では、これらの課題に対応するため自走式水洗トイレカーを導入しました。車いすやオストメイトの方も利用いただけるなど福祉ニーズに対応した仕様で、誰一人取り残さない南あわじ防災の実現を図ります。

トイレカーの特徴

- ☆災害時でも衛生的で快適な水洗トイレの使用可能
- ☆自走式であり機動性が高い
- ☆5つの個室で簡易水洗・洗浄機能完備
- ☆垂直昇降機で車いすの方も利用可能 **全国初!**
- ☆オストメイト対応個室など多機能トイレ
- ☆最大1,000回程度の使用が可能

主要構成

- ◆車体
 - 3tトラックタイプ、農林車登録
 - 事故対応が容易 (H19改正道路交通法の通過可能)
- ◆トイレルーム
 - 男性用：小乗務1基、大乗務2基
 - 女性用：大乗務2基
 - 多機能：大乗務1基、オストメイト対応1基
- ◆設備
 - 垂直昇降機、おむつ交換台、ヘビークープ
 - 換気システム、ソーラーパネル、バッテリー蓄電
 - 満水タンク730ℓ、便槽タンク1,046ℓ

兵庫県南あわじ市危機管理課

※写真撮影の許可は得ています。